

海と港の存在が地域にもたらす効果に関する研究

秋田大学 学生会員 ○齋藤 祐欣
秋田大学大学院 正会員 日野 智

1. はじめに

近年、生活様式の変化などから海や港に出かけなくなる「海離れ」が進行していることが既往の調査で明らかになっている。「海離れ」が進行することにより、豊かな海や港の維持が困難になることが懸念される。海や港の維持は地域の産業だけではなく、地域住民にとってもレジャーや居住環境の面で有益だと考えられる。そこで本研究では、秋田港を事例として地域住民の海や港との関わり方や抱いているイメージを把握し、海や港と深く関わりを持つ人の特徴を明らかにする。また、海や港との深く関わりを持つ人と地域への愛着や地域活動などとの関係性についても把握する。

2. 意識調査の概要

本研究では、地域住民の海や港との関わり方の実態や地域愛着、地域活動への意識、秋田港への評価などを把握するために秋田県秋田市の18歳以上の住民を対象に意識調査を実施した。調査は秋田市の4地区の住民に対し、900(450世帯)部配布し、190(127世帯)部を回収した。

3. 海や港との関わりと評価

(1) 海や港との関わりの現状

年代別の1年間で海や港に行った回数を図1に示す。年代があがるほど海や港を訪問する回数が増加しており、若年層は海や港を訪問しない傾向にあると言える。海や港を訪問する理由は、30代以上では「風景を見に行く」を選択した割合が最も高く、レジャーよりも海や港の雰囲気を楽しむことを目的としている人が多いとわかる。

海や港へのイメージや経験の満足度についての結果を表1に示す。表1では、設問に対して「そう思う」または「ややそう思う」を選択した被験者の割合を示している。海や港への訪問経験がある人と訪問経験がない人を比較すると訪問経験がある人のほうがプラスのイメージを強く抱い

ていることがわかる。しかし、訪問経験がない人においても90%の割合で「海や港は人々の生活にとって大切だ」という項目において「そう思う」または「ややそう思う」と回答しており訪問経験の有無に関わらず海や港を重要と認識している人が多い。

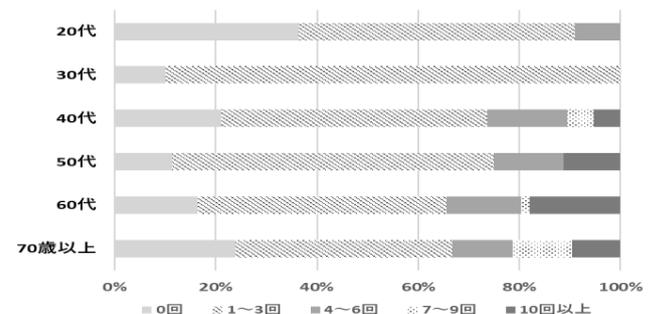


図1 1年間で海や港を訪問した回数

表1 海や港へのイメージと経験の満足度

設問	訪問あり	訪問なし
海や港が好きだ	81.2%	38.7%
海や港に行きたい	63.8%	23.3%
海や港へ行くことは楽しい	77.0%	37.5%
海や港が地域に必要なだ	82.3%	77.4%
海や港は地域に良い影響を与えている	83.8%	74.2%
海や港は人々の生活にとって大切だ	88.0%	90.0%
海や港に行くことでいやされる	83.9%	45.2%
海や港は趣味などのレジャーがしやすい	46.9%	25.8%
海や港に親しみを感じる	67.8%	40.6%
海や港でやりたいことがある	28.2%	16.1%
海や港での体験に満足している	43.6%	28.1%
現在の海や港を次世代へ引き継ぎたい	81.9%	61.3%

(2) 秋田港への評価

本研究では、意識調査を実施した秋田市に所在する秋田港に関する調査も行っている。秋田港への評価に関する設問に「そう思う」または「ややそう思う」と回答した割合を図3に示す。

海や港への訪問回数による大きな差は見られなかった。「秋田港は地域に必要なである」という設問においては84.7%の人が「そう思う」または「ややそう思う」と回答しており、秋田港は地域にとって必要な施設として認識されている。

キーワード：港湾計画、海洋性レジャー、地域振興、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田市手形学園町1-1、TEL(018)889-2359、FAX(018)889-2975

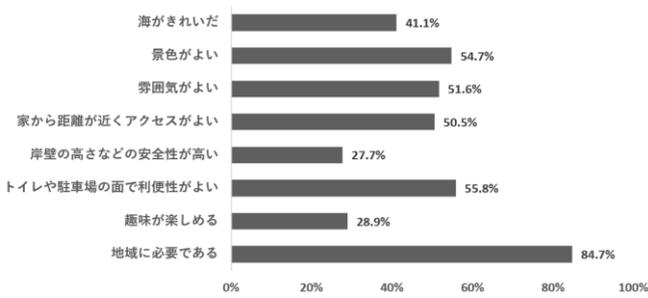


図3 秋田港への評価

4. 海や港での体験と地域への愛着

(1) 幼少期における体験と地域への愛着

本研究では、幼少期における海や港での体験と地域愛着の関係性について分析を行った。幼少期における海や港での体験が「とても楽しかった」と回答した人とそれ以外の人(その他)を現在の1年間の訪問回数別に分類したものを図4、地域愛着や地域活動に関する設問に「そう思う」と回答した割合に分類したものを図5に示す。

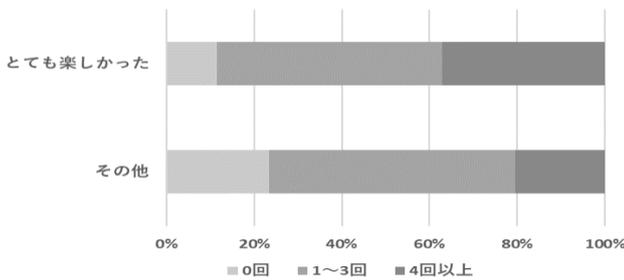


図4 幼少期における体験と現在の訪問回数

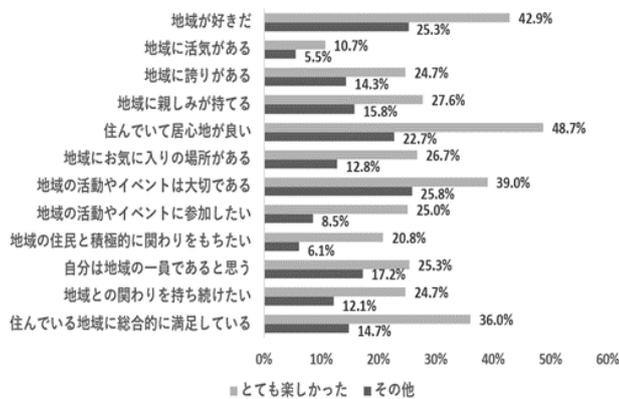


図5 幼少期における体験と地域愛着

図4から幼少期における海や港での体験が「とても楽しかった」と回答した人は「その他」の回答をした人と比較して成人後の海や港への訪問回数は多い傾向がわかる。このことから、幼少期の楽しかったという体験と成人後の訪問回数は関係があると言える。

図5から幼少期における海や港での体験が「とても楽しかった」と回答した人は「その他」の回答をした人と比較して地域愛着や地域活動の面でプラスのイメージを抱いていることがわかる。

(2) 海や港への訪問・体験と地域への愛着

調査における海や港への訪問の有無と地域への愛着や地域活動における設問で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の関係を表2に示す。「訪問あり」の人は「訪問なし」の人と比較して「地域のイベントに参加したい」、「地域との関わりを持ち続けたい」といった地域活動に関する項目で特に良いイメージを持っていることがわかる。このことから、海への訪問の有無が地域愛着や地域活動の意向に関係があると言える。

表2 訪問の有無と地域愛着

設問	訪問あり	訪問なし
地域が好き	81.3%	81.5%
地域に活気がある	31.3%	17.4%
地域に誇りがある	58.2%	40.7%
地域に親しみが持てる	70.2%	72.0%
住んでいて居心地が良い	81.6%	81.5%
地域にお気に入りの場所がある	58.0%	52.0%
地域の活動やイベントは大切である	71.1%	69.2%
地域の活動やイベントに参加したい	49.3%	20.0%
地域の住民と積極的に関わりをもちたい	44.4%	18.5%
自分は地域の一員であると思う	68.9%	40.0%
地域との関わりを持ち続けたい	64.9%	44.4%
住んでいる地域に総合的に満足している	68.0%	64.0%

5. おわりに

本研究における分類の結果、海や港の必要性を感じている人は多いが、若年層を中心に訪問していない人も少なくないことが分かった。また、幼少期における海や港での楽しかったという体験が成人後の地域愛着に関わりがあることも明らかとなった。

すなわち、海や港により多く訪問してもらうこと、さらには幼少期から海や港に親しみ、そこで楽しいと感じるような体験をしてもらうことが今後の地域振興にとっても有用と考えられる。

参考文献

1) 日本財団『「海と日本人」に関する意識調査結果 2019年7月12日』

https://uminohi.jp/wpcontent/uploads/2019/07/配布用_「海と日本人」意識調査結果.pdf